

7/7

海洋・港湾構造物設計士会が

CDITの共催で第10回研修会を開催

海洋・港湾構造物設計士会(以下、「設計士会」。会長＝山本修司)は、7月7日午後1時半から、Webセミナー方式で第10回研修会を開催した。

共催は(一財)沿岸技術研究センター(以下、CDIT)、後援は国土交通省国土技術政策総合研究所(以下、国総研)および海上・港湾・空港技術研究所港湾空港技術研究所であった。研修テーマは、「狭義の設計から広義の設計へ」その3。

海洋・港湾構造物設計士会は、平成22年度に財団法人

沿岸技術研究センターが創設した。高度な専門的応用能力を持って性能設計実務を行うにふさわしい技術者である「海洋・港湾構造物設計士(以下、「設計士」)の会である。

「海洋・港湾構造物設計士」の資格制度は、海洋・港湾構造物設計士制度監理委員会(委員長＝日下部治東京工業大学名誉教授)の審議を経て、「設計士」に求められる基本的要件を示し、さらに参考としてもとめる各職域別の設計士像を提示した。

同会では、会員はじめ海

洋・港湾構造物の設計に関する技術者のための情報発信の場として広く活動している。研修会は、その活動の一環である。

はじめに、山本修司海洋・港湾構造物設計士会会長があいさつに立ち、続いて杉中洋一国土交通省港湾局技術企画課長が来賓としてあいさつを述べた。

次に、基調講演に移り、藤本隆宏東京大学大学院経済学研究科教授が「設計論に立脚した広義のものづくり経営学」をテーマに講演した。

休憩をはさんで、パネル

ディスカッションを行った。テーマは、「地盤調査から設計へ」である。

岩崎公俊基礎地盤コンサルタンツ(株)会長が問題提起を行い、日下部治設計士会顧問(東京工業大学名誉教授)がコーディネーターを務めた。

宮田正史国総研港湾施設研究室長がコメンテーターとなり、現行の性能設計への思い、現在生じている地盤調査上の課題と問題点、さらに地盤調査からみた今後の設計の課題と取り組みの方向についてパネルディスカッションを行った。

パネリストは、岩崎会長、渡部要一北海道大学大学院工学研究環境フィールド工学部門教授、山崎浩之CDIT審議役、浜地克也設計士会理事(株大林

組)で、それぞれ意見を述べた。

最後に、山崎浩之CDI

T審議役がとりまとめの閉会あいさつを行い、閉会した。



海洋・港湾構造物設計士会第10回研修会の模様